



一般社団法人
タウンスペース WAKWAK
2019年度 事業計画

基本理念

すべての人に居場所と出番がある社会、すべての人がSOSを発信でき、互いに支え・支えられる社会、新しい公共としての住民主体による「自立」「参加」「協働」による地域の再生と互いに絆を結び合えるつながりの地域社会をめざすことを目的とする。

基本方針

- 1) 支援を必要とするひとりぐらし高齢者、障がい児者、子育て家庭や若者への支援サポートだけでなく、新たな雇用や居場所づくりなどひとりひとりの生活に合わせたまちの姿をグランドデザインし、住民自らの参加と協働によるまちづくりをめざす。
- 2) まちのわくわくを創造するコミュニティスペースとしての役割も大切にしながら、「出会い・つながり・元気を創造する地域福祉」「それぞれのライフステージを補完するまちの仕組みづくり」をめざす。
- 3) 福祉と人権を基調にした市民活動の促進を通して、市民活動団体と地域社会とのネットワーク構築事業、市民活動団体相互および市民・事業者・行政との連携、協働促進事業、その他、当法人の目的を達成するために必要な事業を行う。

重点課題

1) 災害支援からコミュニティの再生へ（最重点課題）

2018年6月18日に起こった高槻を震源とする大阪北部地震により、市営住宅の19棟のうち2棟が倒壊の危機があると診断され、取り壊しとなった。その他17棟においても建設から半世紀が経ち老朽化が著しく、「一刻も早く安全な場に住みたい。」という住民の切実な思いがある。また、災害支援にあたる中、災害時ほど要援護者の社会的孤立が顕著に表れた。これらの状況をもとに高槻市と連携しながらハード面とソフト面の両方からコミュニティの再生に着手し、誰も取り残さないまち（包摂のまち）の仕組みづくりを包括的に行う。

2) 財政基盤の安定化-多様な市民力を生かし持続する社会的企業-

2017年度より「助成金、基金中心の財政基盤」から「事業収入、寄付金収入中心の財政基盤」への移行を掲げた。社会貢献事業を支える収益事業を立ち上げ、行政からの受託ゼロベースかつ最少のプロパーで様々な層の地域住民の力を借りプロジェクトを行う社会的企業としての仕組みが一定出来上がった。この仕組みは地域住民力や自治力を高めるまちの仕組みとなっている。このことから当面予算規模は2,000万前後かつ民間の助成金比率、行政からの受託比率も全体予算の35%以内に抑え、政治状況や時代のブームに翻弄されることなく持続安定的に事業が運営できる体制を確立する。

3) 調査・研究開発事業の新設

これまでも富田地区の取り組みは当該地域の発展のみならず、他地域の課題解決の一助にな

る事を目指し行われてきた。このことを受け継ぎ、新たに調査研究事業を立ち上げ、大学の研究者等と連携しながら実践の学術研究を深めるとともに、得られた知見を地域内外に学会発表、論文の執筆、講師派遣や視察を通じて積極的に発信する。

4) 組織基盤の強化と若年層の育成

この数年、事業・財政規模共に大幅に拡大した法人の円滑な事務処理を担うプロパーを増員し組織基盤の強化を図る。また、引き続き近隣の大学と連携し、大学生の発掘と事業への参画促進を図るとともにプロジェクトごとの担当制や役割の委譲など経験年数や段階に応じた長期的な若年層の育成に取り組む。

5) 地域が長年培ってきた包摂の文化×地域共生社会の風×SDG s

富田地域が長年培ってきた包摂の文化を基盤としながら、国連が提唱する「SDG s」や厚労省が掲げている「地域共生社会」の風をつかみ、子ども分野で実践している包摂の仕組みをまちのあらゆる課題をもつ人たちを支える仕組みへと中長期で進化させる。

① 重点1 包括的相談支援体制の確立

引き続き、制度や教育、地域からこぼれ落ちがちな層や複合的な困難を抱えるケースの解決のために多職種が連携して支援を図る仕組みを構築する。

② 重点2 多職種の連携基盤づくりとパートナーシップ

様々な事業実践を通じて、地域、家庭、学校、行政、大学、企業との多職種連携のネットワークを構築し、その連携の下で社会課題の解決にあたる。

以上の基本理念・基本方針・重点課題をふまえ、次の事業を行う。

1. 法人運営事業

1) 会員拡大

各種事業の場や広報活動を通じ、本法人の目的に賛同し、ともに活動を進めようとする正会員および賛助会員の加入促進を図る。

2) 理事会、社員総会および企画運営スタッフ会議の開催

- ・理事会の開催 5月、9月、12月、3月の年4回
- ・社員総会の開催 5月、3月の年2回
- ・企画運営スタッフ会議 随時開催

3) 情報発信活動

- ・リーフレットおよび情報誌「WAKWAK通信」（年3回 4月、9月、2月の発行）
- ・「タウンスペースWAKWAK」HP（URL：<http://wak2.jimdo.com>）やフェイスブックページの更新などインターネットを通じたリアルタイムの発信に努める。

4) 経営・財務管理

持続的な活動を担保していくための経営計画と適切な財務管理を行うとともに、事業収入の増加、寄付金先の開拓、民間助成金の積極的活用、クラウドファンディング、インターネットによる寄付サービス、チャリティグッズの販売をするなど事業の安定的基盤づくりを行う。

現在の仕組みが地域住民力を高める仕組みとなっていることから、当面予算規模は2,000万前後かつ民間の助成金比率、行政からの受託比率も全体予算の35%以内に抑え、政治状況や

時代のブームに翻弄されることなく持続安定的に事業が運営できる体制を確立する。

※本来公的支援で行うべき事業は制度化されれば制度への振り替えも検討する。

5) 役員体制・事務局体制の充実化

引き続き新たな公共を担うための専門性の担保と多職種連携のためのノウハウや人脈づくりのため事務局体制強化および理事体制のさらなる充実化を図る。

6) 人材育成

- ・次代のWAKWAKを担う人材の確保と育成にむけ長期的視野でとりくむ。
- ・インターンの受け入れの導入などを検討する。

2. 調査研究開発事業

これまでも富田地区の取り組みは地域の発展のみならず、他地域の課題解決の一助になる事を目指し行われてきた。このことを受け継ぎ、新たに調査研究事業を立ち上げ、大学の研究者等と連携しながら実践を深めるとともに、得られた知見を地域内外に学会発表、論文の執筆、講師派遣や視察を通じて積極的に発信する。

1) 学術調査・研究及び学会発表

高槻富田地区の実践を学術研究を通じて深めるとともに、そこで得られた知見を日本各地で行われる学術大会等へと発表する。

2) 研究会への参加

学校づくり研究会・日本福祉大学研究会等さまざまな研究会に参加し知見を深める。

2. 協働交流事業

WAKWAKが実施する各事業をはじめ、地域社会とのネットワーク構築、市民活動団体相互および市民・事業者・行政との連携、協働促進を推進する。

3. 新たな福祉と人権・協働のまちづくり事業

1) 地域福祉ランドデザインづくり事業（コミュニティ再生事業）

2018年6月18日に起こった高槻を震源とする大阪北部地震により、市営住宅の19棟のうち2棟が倒壊の危機があると診断され、取り壊しとなった。その他17棟においても建設から半世紀が経ち老朽化が著しく、「一刻も早く安全な場に住みたい。」という住民の切実な思いがある。これらの状況をもとに高槻市と連携しながらハード面とソフト面の両方からコミュニティの再生に着手し、誰も取り残さないまち（包摂のまち）の仕組みづくりを包括的に行う。

①個別のつぶやき拾い活動

災害後の生活上の困りごとの聞き取り調査を地元住民を中心としたグループで実施する。

※市営住宅建て替えを控え、非常に重要な調査になると考え、当事者を含むグループが調査を通してエンパワーするプロセスを重視する。

・調査時期 4月～6月

②建て替えに向けたまちづくりワークショップの開催

住宅の建て替えに向けワークショップを開催し多様な層の声を拾い上げる。

※メンバーの多くは高齢者が中心となっていることから、子育て層や若者層、近隣の大学生にも呼びかけ多様な層の声を拾い上げる。

- ・ワークショップの開催（5月～7月 計3回）

③「未来にわたり住み続けたい町」のプランニングと協議の促進

ワークショップを通じて拾い上げた多様な声を専門家と協働しプランニングを行い、高槻市への要望として提出、協議を行う。

- ・建て替え計画が単に建て替えのためだけの計画になることなく、地域コミュニティの再生や子どもから高齢者の包括支援の仕組みとなるよう先進事例を学びながら研究を進める。
- ・制度のはざまに陥る子どもから高齢者の包摂の仕組みとして、法人自らの拠点となる場「コミュニティスペース」の検討を始める。

2) 生きがいと居場所づくり事業

①ボーダレスアート事業

障がいのある・ないの垣根を取り払い、アートを通じて楽しみながら人との交流を通じ、豊かな心を育みながら自己表現を行う事を目的として、「ボーダレスアート事業—わんだーぼっくす」を開催する。また、ボーダレスアート展の開催、各種公募展への応募等をつうじて素晴らしいアート作品の発信を行っていく。

○ボーダレスアート展

○期間：月2回 土曜日 午前10時～12時（前期は5月～10月、後期は11月～3月）

○場所：富田青少年交流センター（予定）

3) ひとりぐらし高齢者・障がい者・若者支援事業

①コミュニティソーシャルワーク事業

- ・相談・アウトリーチ：高槻市立第四中学校区を単位として、子どもから高齢者など様々な生活における困り事を抱える方の課題の解決をするため地域内施設、学校等と連携し相談支援・アウトリーチを行う。
- ・包括的相談支援体制の構築：制度や教育、地域からこぼれ落ちがちな層や複合的な困難を抱えるケースの解決のために多職種が連携して支援を図る仕組みを構築する。

②地域支え合い(家事代行支援)事業

- ・高齢者世帯の困りごと(ニーズ)を集約し、家事代行支援サービスの実施に向けて地元関係機関との協議を促進する。

③障がい者グループホーム整備事業

- ・ライフステージを補完するまちの仕組みづくりをめざし、社福つながりおよびつながり後援会ひだまりとの協働で地域福祉グランドデザインづくりを行う。
- ・障がい者グループホーム開設をふまえ、社福つながり及びつながり後援会・家族会ひだまりと共に、利用者主体のホームづくりに取り組む。また、女性のグループホーム整備につ

いても今後の富寿栄住宅建替え計画とも連動しながら協議を進める。

4) 青少年・子育て支援（こどものあゆみバックアップ）事業

2014年からはじまった学習支援事業の延長として、2017年に二つの子ども食堂をスタートした。この事業を地域社会全体で取り組んでゆくため地域、家庭、学校、行政、大学、企業との多職種の連携をしながら子どもたちが「ただいま～」と言って安心して帰ってこられるような居場所をつくる。

①学習支援事業

- ・生活困窮家庭の子どもたちをはじめ様々な課題をもつ子どもたちへの学力保障と居場所づくりを目的に学習支援事業を行う。
- ・近隣大学と連携しながら学習支援に関わる大学生講師の確保と人材育成に力を入れる。

○学習支援わんぴーす

○期間：5月連休明け～3月末の通年 毎週2回（月・水 午後7時～9時）

○場所：富田ふれあい文化センター（予定）

○対象：第四中学校区の中学生 およそ15名

○受講料：12,000円/月 ※生活保護受給家庭・ひとり親家庭等 6,000円/月

②「富田わくわく食堂（子ども食堂）」

○趣旨：地域に住む多世代、子どもから高齢者までが交流する拠点として共生食堂を開催する。

- 期間：春・夏などにそれぞれ1回開催予定
- 場所：富田ふれあい文化センター（予定）・社会福祉法人つながりほか
- テーマ：「未来にわたって住み続けたい町」
- 対象：地域に住む子どもから高齢者まで誰でも
- 連携：地域、家庭、学校、行政、大学、企業とのパートナーシップにより実施

③「富田ただいま食堂（子どもたちの夕刻を支える場）」

- 期間：5月連休明け～3月末の通年 毎週1回（水）午後5時半～午後7時
- 場所：富田ふれあい文化センター（予定）
- 対象：顔の見える関係性を大切にするため当面は学習支援を受講する中学生の姉妹・兄弟を対象とする。10名前後
- 参加費（食費）：子ども300円 大人500円

④夜の子どもの居場所づくり

- 趣旨：虐待等深刻な状況に陥った際に家庭と公的サービス（ショートステイ・一時保護所など）の制度のはざまに陥る子どもたちを支援することを目的に実施。引き続き社会貢献プロジェクトの中でさらなる充実に向けた支援方策の検討を行う。
- 期間：通年の中で事案が起こった際に実施
- 内容：上記の事案が起こった際に保護者の同意のもと事業を実施
 - ※今年度、夜の居場所へと移行しやすいようシミュレーションを行う。
- 場所：富田地区内

○その他：学識経験者等との連携や事業に対するアドバイザーとして弁護士との契約を行うなど多様な専門家の力を借りながら事業の実施を行う。

⑤子どもの貧困学習会の開催

さまざまな課題を持つ子どもたちや制度のはざまに陥る子どもたちの支援の幅を地域内全体にすそ野を広げていくため子どもの貧困連続学習会を開催する。

○期間：年に3回予定

○場所：富田ふれあい文化センター（予定）

○対象：支援者、学校関係者及び興味のある方ならどなたでも

⑥社会的養護で暮らす子どもたちのエンパワメント事業

■児童養護施設の子どもたちを対象としたプログラムの実施

虐待や一人親、障がいなどの社会的、経済的事由により児童養護施設に通う児童（社会的養護で暮らす子どもたち）を対象に自然体験活動を行う中で、生きる力や対人関係形成力、自己肯定感を継続的に育む事業を実施する。

○時期：2月から3月 予定

○対象：高槻市内の児童養護施設の子どもたち（小学生・中学生）

○場所：摂津峡青少年キャンプ場（予定）

■児童養護施設プログラムのためのボランティア・スタッフ研修の実施

将来、学校の教職員や児童養護施設など教育関係や福祉、対人援助職を目指す学生を

対象に、研修や実践を通して虐待や発達障がいに対するより深い理解と実践力を育む。

※本事業も10年目を迎え参加する子どもたちの中には高校生も参加するようになることから施設との協議の上、社会性を学ぶ場として卒業生のスタッフ参加も検討する

○テーマ：子どもたちの行動の背景にあるものに寄り添うために

○時期：11月～3月 予定

○対象：将来、教職員や福祉職などの教育関係、対人援助職を目指す学生 定員20名

○場所：富田ふれあい文化センター及び摂津峡青少年キャンプ場（予定）

⑦富田ふれあい義塾の活動支援

- ・青少年の荒れからの再生をめざし活動している「富田ふれあい義塾」との連携、活動支援を引き続き行う。

5) 人材育成事業

①連続講座「富田ものがたり」の開催

富田地域内施設において業務として従事する方（行政職員、学校、幼稚園、保育所等教職員、民間施設職員等）やボランティア活動を行う方々を対象に、富田地域の特性や施設、団体の設立の背景や歴史に対する知識を深める連続講座を開催する。

②マンパワーの発掘とまちづくりへの参画

- ・まちの達人発掘、コミュニティボランティア育成のための研修事業を行う。

- ・近隣の大学等と連携しながらまちづくり全般に対して携わる学生を発掘し学習支援わんぱーすや子どもたちの夕刻を支える場、児童養護施設のプログラム等 WAKWAK が行う多種多様な事業（実践現場）へつなぎ育成を図る。
- ・多様な講座開催を通じて若年層を発掘し育成を行う。

4. その他事業

1) 事務受託事業

部落解放同盟高槻富田支部、富田富寿栄老人会、富田地区企業者組合、社会福祉法人つながり後援会・家族会ひだまり、人権ネットワークの5団体からの事務受託事業を引き続き実施する。

2) 富田地区視察の受け入れおよび講師派遣事業

- ・市内外や他府県の行政機関や福祉施設等へ役員や職員が講師として積極的に出向き、人権啓発の推進や地域福祉の向上を図る。また、そこで得る報償費（収益）を法人の安定的な基盤づくりに寄与するとともに法人の社会貢献事業へと循環する。

- ・これまで行ってきた富田地区視察の受け入れを積極的に行い、受け入れメニューのさらなる充実も併せて図る。

3) マイノリティ・スタディツアーの準備

アメリカ・サウスダコタ州アメリカ先住民居留区スタディツアーの準備

- ・次年度以降に開催予定のアメリカ先住民居留区へのスタディツアーの開催に向け下見を

はじめプログラムの準備を行う。

○時期：7月

○行先：アメリカ・サウスダコタ州シャイアンリバー先住民居留区およびパインリッジ
先住民居留区ほか

○その他のツアー先についても検討するとともに旅行業取扱管理者の取得も検討する。